タウンミーティング開催結果概要

会議の名称	君津地域における生物多様性保全と市民生活のかかわり		
日　　時	平成１８年１２月４日（月）14：00～16：30		
地域・会場	君津市役所６０１会議室	出席人数	８０人
主催団体	君津地域タウンミーティング実行委員会		

趣旨説明
○県側から、「(仮称) 生物多様性ちば県戦略」策定方針等について概要説明。

話題提供１
○君津地域における生物多様性の現状（盤洲干潟をまもる会・藤平氏）
・個体、種、生態系の３つの観点から緊急性の高い課題がある。倒伏が危惧される県指定天然記念物「三島の白樫」の保護、絶滅が危惧される房総丘陵のヒメコマツ個体群の保全、盤洲干潟・小櫃川河口域の自然環境保全地域指定に県は本気で取り組んで欲しい。

２
○農業とのかかわり（JA きみつ・小平氏）
・中山間地域ではイノシシ、サル、シカ、ハクビシン等の有害鳥獣による農作物被害が大きい。過疎化、農家の高齢化に伴い、耕作放棄も増えている。このままでは農地の環境機能の低下が危惧される。

３
○林業とのかかわり（千葉県森林組合君津支所・石野氏）
・君津地域は県内でも最も多くの森林を抱える地帯である。燃料革命を境に山林が荒れた。県産材の需要拡大、間伐材の利用促進が必要である。また、サル、シカ、イノシシ等の有害獣の撲滅に力を貸して欲しい。

４
○観光とのかかわり（君津市観光協会・鴇田氏）
・君津地域の山間部では、シカの運ぶヤマビルの増加、イノシシによるゴルフ場の被害、亀山湖、三島湖、豊英湖等で増加したカワウによる釣魚被害等による観光客の減少が問題。被害を減らす処置を講ずるべき。

主な意見等
○総合討論
・地元住民の努力で行っている有害鳥獣駆除に対して、県や市は援助を。
・小櫃川をアユが上れる川にして欲しい。
・小糸川中流域で毎年のように発生する水害への対策を講じて欲しい。
・水源である源流部の森林の保全のため、下流からも協力して欲しい。
・多くの絶滅危惧生物の生息地である里山を守らなければならない。
・かつての自然を取り戻すためには地域住民も努力することも大事だ。
・ブラックバス等外来生物が増加して、在来生物に影響を与えている。
・県外からも受け入れている残土捨て場の問題は県が中心となり解決を。
・すでにある条例が十分に運用されているのか検証をするべき。
・このＴＭで終わりにせず、今後も地域住民の声を聴く仕組み作りを。

論点整理
○論点整理
房総丘陵から小櫃川河口の盤洲干潟まで、多様な環境を擁する君津地域は県内でも最も生物多様性の高い地域である。それぞれの景観において、個体、種、生態系の各レベルで保全を必要とする対象も多く、外来種の増加による在来生物の減少もみられる。しかし、イノシシ等有害鳥獣の被害増加がこの地域の最大の問題である。また、残土捨て場、産廃処分場による里山の荒廃や水源地汚染の危惧も大きな問題である。とくに山間地域では生物多様性保全と農林観光産業を両立させ、地域住民の生活を守ることが重要である。

タウンミーティング開催結果概要			
会議の名称	環境・自然・里やまの山武市タウンミーティング		
日　　時	平成１８年１２月９日（土）13：30～16：30		
地域・会場	山武市成東文化会館	出席人数	６２人
主催団体	環境・自然・里やまの山武市タウンミーティング実行委員会		
１部	○里山等散策 ・成東早船地区の里山・谷津田の状況を視察（9:00～12:00）		
２部	○タウンミーティング――講演「里やまの自然誌」　中村俊彦 ・生物多様性とは、「いのちの賑わいとそのつながり」であり、地域からのボトムアップで戦略をつくり、しっかりやりたいと知事が断言。 ・成熟時代へと変わり、戦略は「生物多様性」を進める設計図。 ・生物は、食料・ｴﾈﾙｷﾞｰ等資源の源、無くなると身体・精神の不健康につながる。		
主な意見等	○５分科会に分かれ個別ミーティング ①絶滅危惧種（里山で遊ぶ子供達）の再繁殖 ・農地や里山などの所有者の協力が難しくなるなど、学校での取り組みは、教室の中など限られたものが多くなっているようだ。 ・子供たちの自然体験教室等への参加が減る傾向にある。ホタルやカブト虫など子供たちが進んで参加する仕掛けが必要である。 ・ボランティアの場合子供の怪我が心配。親を一緒に参加させたりしているが、保険の手当など行政の参画も必要である。 ・親同士、大人が仲良くなれば地域のつながりもできる。 ②里山にゴミは要りません ・もっと分別し、使えるものは使っていくことが重要。（３Ｓが重要） ・住民によるパトロールを強化し、不法投棄をさせない社会をつくる。 ・最終処分場は必要になるが、地域住民の合意による決定が必要。(困難) ③食虫植物群落の今 ・保全活動を行っている自分たちが楽しくアピールすることが重要。 ・海水をかけた葱がマスコミに取り上げられており、いちごも有名。箱にロゴを付ける等、これら地域の誇りと一緒になったPRが重要。 ④農業の再生は山武市から ・不耕起で作った米はおいしく、もっと宣伝し広げるべきだ。 ・田や畑や森は一体の関係であり、別々に考えるべきでない。 ⑤川を市民の手に ・国でも、自然に配慮した護岸整備を進めている。 ・一人ひとりの環境意識の高揚が必要で、そのための仕掛けを。 ・ごみも出さないことが重要。 ・さけの里親募集を行政が行っているが、積極的な参加をお願いしたい。		

タウンミーティング開催結果概要			
会議の名称	環境タウンミーティングちば（第１分科会　生物多様性ちば県戦略）		
日　　時	平成１８年１２月１０日（日）13：00～16：15		
地域・会場	千葉県立中央博物館	出席人数	６８人
主催団体	環境タウンミーティングちば		
主な意見等	１　全体会　（13：00～13：25） ○主催者より挨拶及び趣旨説明、環境政策課長挨拶、環境基本計画の見直し等についての説明 ２　分科会　（13：30～16：15） ○第１分科会（生物の多様性ちば県戦略の策定）、第２分科会（環境学習基本方針の見直し）、第３分科会（環境再生計画の見直し）に分かれて議論を行う。 ３　第１分科会の概要 ○４つのチームに分かれて「生物多様性ちば県戦略」策定への提案を議論。 ・野菜チーム：「生物多様性のちば県戦略」は生命のつながり・大切さを掲げて、これを全てに貫き、また実効性を確保して欲しい。特に子どもたちを絶滅危惧種にしないようにして欲しい。個別意見として、環境としての農業の確立、農と市民とのかかわりをつくる、環境教育の重要性、意識改革（生態系を守る立場からの遺伝子組み換え作物等への警鐘、もったいない精神）が提案された。 ・葉っぱチーム：戦略に生かしてもらいたいこととしては、景観としての保全、外来種の輸出入制限、自然再生事業の実施、企業・ＮＰＯ・市民で話し合える場作り、情報開示の徹底（主に安全面で）、無農薬農業の仕組み作り、環境ホルモン（水質浄化の必要性）、自然とのふれあいの場作り、ＮＰＯ等の活動資金の援助、環境教育等。特に仕組み作りが必要。 ・貝チーム：合意形成（地域内、役所間、自然の大切さの共有等）が重要ではないか。個別意見として地域のコーディネーターを作る、時代設定（どの時代を目標として多様性を図るか）、場所・地域の限定（生息環境の分断化を防ぐ、谷津田保全、自然再生（川を元に戻す、冬水田んぼ、有機農法）が出た。 ・チョウチーム：キーワードは若者と社会への拡がり。若い人にも農林水産業の魅力を知ってもらい後継者を育てることが重要。自然に優しい農林水産業の構築、絶滅種・危惧種の多い水域、干潟の保全条例、行政の役割の再認識が必要。 ○千葉県立中央博物館　倉西上席研究員から、「ちば県の生物多様性の現状について」講演がある。		

タウンミーティング開催結果概要

会議の名称	北総里山タウンミーティング　―生物多様性ちば県戦略づくりにむけて―		
日　　時	平成１８年１２月１０日（日）13：30～16：15		
地域・会場	東京電機大学　福田ホール	出席人数	２１０人
主催団体	北総里山タウンミーティング実行委員会		
あいさつ **趣旨説明** **講　　演** **スライドショー**	○開催あいさつ　　ケビン・ショート氏（東京情報大学教授） ・千葉ニュータウンには都市的な刺激と里山自然がある。今後どのようなシステムで里山自然を守っていくかが地域づくりのポイントになる。 ○県から趣旨・スケジュール等を説明 ○「イギリスのニュータウン開発の顛末に学ぶ」　池田志朗氏 ・イギリスはニュータウンの生まれ故郷（田園都市が 1904 年ｽﾀｰﾄ） ・最初のﾚｯﾁﾜｰｽは街に農地を取り込む形で街を開発、最後のｱｰﾋﾞﾝは既存市街を再開発で活性化する（都市の継続的な開発・運営を展開） ・印西牧の原は、駅を中心に南北に里山の緑の軸を貫入させている。 ・ニュータウンは、ｶﾞｰﾃﾞﾝ・ｼﾃｨとして都市的魅力と田園的魅力を両方備えていることが重要である。人間は田園から離れられないためである。 ○北総の里山物語・生き物の声を聴こう　長谷川　雅美氏（東邦大学教授） ・北総の里山では、開発から 20 年以上がたち緑も育ってきた状況もあるが、一方、ゴミの投棄や三面張りの水路など多様性を損なう傾向が強い。 ・自分の好きな場所を見つけ、周辺の環境から川、海へのつながりを意識。足元から対応を積み上げていく。（ｼﾝｸ・ｸﾞﾛｰﾊﾞﾘｰ、ｱｸﾄ・ﾛｰｶﾘｰ） ・市民活動としての横のつながり（連携）が重要。イベントカレンダーやよい場所のカタログ、地図等を作成し、多くの方々の参加を得る。 ・これからのまちづくりは、周辺地域の生態系と調和させた地元の環境保全政策が必要になる。		
主な意見等	○意見交換 ・地域内に産廃の不法投棄があり土をかぶせ畑になっている。上辺はきれいでも地下水が危ない。引越しの家具等がそのまま捨ててある。 ・住民が生活している近所で鉄砲で狩猟をしているが、こわくて里山を歩けない。これで良いのか。 ・新しい住民と土地を所有している旧来の住民が融合しなくてはダメ。 ・農地をもっている人と都市に住んでいる人をつなげることで、遊休農地を活用できるのではないか。 ・新住民に、団地の中の枯葉を利用しミニ里山を作って欲しい。農家は高齢化で里山も畑も荒れているため、家庭菜園をやって欲しい。 ・県企業庁の土地を使わせてもらい、里山として復元してほしい。 ・PTA の親父の会で酒を酌み交わし新旧住民の融合を図っている。 ・科学物質に過敏な者もいる。戦略に農薬の視点も入れて欲しい。 ・みんなで近くで採れた農産物を買おう。そうすれば農家もよいものを作り、農薬を減らす。 ・谷津田は多様性の宝庫。U 字溝は経済的だがやめて欲しい。 ・里山再生で篠を切ったりしているが燃やすと周囲が過剰に反応する。 ・竹や枝打ちしたものを燃やすことで発生する竹酢液や木酢液といった熱処理効果を見直してほしい。 ・環境には車でなく自転車が良い。自転車道の整備も必要。 ・里山を自分で歩いて確認し、感動することが必要。 ・その場所に住んでいる人に対して話し合いをもって解決していくことが必要。		

タウンミーティング開催結果概要			
会議の名称	生物多様性ちば県戦略タウンミーティング		
日　　時	平成１８年１２月１２日（火）１５：30～１８：30		
地域・会場	柏市市民活動センター会議室	出席人数	３７名
主催団体	千葉県の生物多様性を考える会		
説明・意見等	○県側から、「環境基本計画」及び「生物多様性ちば県戦略」について説明 ○千葉県立中央博物館　中村副館長より、戦略策定の背景（堂本知事との対話を含めて）、生物多様性の概念、新・生物多様性国家戦略について説明 ○意見交換 ①環境教育 ・環境学習基本方針が出来て安心し、環境学習がおざなりになっているのでは。 ・　自然を考える契機となるようなパンフレット等の作成。 ・　里山を保全し、「自然とのかかわりの知恵」を受け継いでいくことが大切なので、実体験をすることが重要。肌で覚えたことは忘れない。 ・環境学習は、小・中の問題だけではなく、高校生・親の世代にも必要。 ・首都圏の学校を対象として自然体験の受入れをしてみてはどうか。 ・学校の教科に「千葉県の生物多様性」を入れて欲しい。生物を必修とするべき。 ②農業問題について ・遺伝子かく乱等の問題については、生物多様性に配慮した農業にする。農業改革が必要。 ・千葉県でも離農問題があるが、人材育成・後継者の育成が必要。 ③遺伝子組み換えについて ・遺伝子組み換えナタネの株が千葉でも発見されている。在来種との交雑、食の安全ともつながる大切な問題。現在検討されている「栽培指針」との整合性を図って欲しい。 ④その他 ・　行政とＮＰＯの協働の仕組みを色々な形で作って欲しい。 ・戦略策定の際には、他部署と十分連携して欲しい。横の連携ができるような体制を作ることが必要。 ・東葛地域は都市部が多い。有害生物への対応など、自然との共存をどのように書いていくのか。 ・　官と民の役割分担を明確化して欲しい。官は入れ物（施設等）を持っているのだから、ＮＰＯ等に提供して欲しい。ＮＰＯ等の活用の仕組みが必要。 ・　開発の前に、県の環境会議でしっかり影響を見極めていただきたい。つくばExpressの開発に疑問を感じている。 ・　市民が意見を訴えられる場所がない。また市民の意見に拘束力はあるのか。 ・　実行性のあるものにして欲しい。計画を作ってもヒト・カネ・モノが付かないと、動かない。県庁職員からまず意識改革が必要。 ・　特区を作って、県債を発行し環境を保全するのはどうか。		